

科目名称：	保育実習指導C	
担当者名：	村上 知子、石野 友子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>「保育士資格」を取得するため、本学では「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅱ」を実施するが、「保育実習指導C」は「保育実習Ⅱ」の事前・事後指導に当たる授業である。学習した理論や技術を、実習を通して具体的・総合的に確認をすることを目的とする。「子ども理解」を深め、保育者の職務内容を把握し、実習により保育者にとって大切なことは何かを学び、その振り返りをし、事例研究にまとめ発表を通して、実習での学びを明確化することを目的とする。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>実習を通して、「保育の役割」や「子どもの姿」を学び、理論や技術について再度確認をし、この実習体験を現場に生かしていける力を身につけていく。そのための実習の振り返りを行い、自分だけでなく他の実習報告の発表を聞くことにより、より深く理解できるようにする。さらに、それらを実習報告書として冊子をつくり、記録をまとめていくための手順等を学び、現場に出てからの力となるようにする。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)			80%	20%	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》保育士	《経験年数1》8ヶ月
	《内容2》幼稚園教諭	《経験年数2》20年、22年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
実習準備	自ら課題に積極的に取り組み、現場で生かすことが出来る。	課題に積極的に取り組み、現場で生かすことが出来る。	課題に積極的に取り組むことが出来る。	課題に取り組む努力が見られない。
提出課題	自ら課題に取り組み、グループで協力し意見をまとめ、提出期限を守ることが出来る。	自ら課題に取り組み、協力し、提出期限を守ることが出来る。	自ら課題に取り組み、提出期限を守ることが出来る。	協力し、課題に取り組む努力が見られない。
授業への積極的関与	グループ内での役割を把握し、積極的に課題に取り組み協働的参加が出来る。	グループ内での役割を把握し、協働的に取り組もうとしている。	グループ内での役割を把握し、積極的に課題に取り組む。	課題に取り組む努力が見られない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 保育実習Ⅱに向けて、何が必要なのかを考える。	シラバスを精読し、本講義の概観を確認しておく。	30分
第2回 身上書の下書きを書く。	身上書を丁寧に書く練習をしておく。	20分
第3回 身上書の清書をする。	身上書の内容をしっかりと理解しておく。	20分
第4回 実習前講演会に参加する。	実習に際しての疑問や質問を考えておく。	20分
第5回 実習前講演会に参加する。	実習講演会について振り返りレポートを完成させておく。	20分
第6回 オリエンテーションについて確認する。	電話のかけ方等の確認をしておく。	20分
第7回 実習記録記入方法を学ぶ。	実習園の概要を調べておく。	30分
第8回 DVD「保育士の仕事と役割」を視聴する。(ICT活用)	保育士の仕事と役割について調べておく。	30分
第9回 実習記録の確認をする。	実習の記録で必要なところを記入しておく。	30分
第10回 実習の準備を行う。	実習に必要な教材を考え、準備しておく。	30分
第11回 季節や年齢に応じた指導について理解する。	教材の性質を理解し、年齢にあった指導案を書いておく。	40分
第12回 チュートリアルに参加する。	自分の実習を踏まえて、1年生に伝えたいことを考え、準備しておく。	30分
第13回 実習中の注意事項について理解する。(グループワーク)	実習中にどのようなことに注意をしたら良いか考えておく。	30分
第14回 「保育実習Ⅱ」でできることを学ぶ。	保育実習Ⅰの体験を基にどのように取り組んだらよいか考えておく。	30分
第15回 「保育実習Ⅱ」に向けての心構えを確認する。	「保育実習Ⅱ」の課題を考えておく。	30分
第16回 「保育実習Ⅱ」の振り返りをする。	「保育実習Ⅱ」の実習記録を見ておく。	30分
第17回 「保育実習Ⅱ」について話し合う。(グループワーク)	保育実習記録を見てどのような気づきがあったかをまとめておく。	30分
第18回 「保育実習Ⅱ」について話し合った内容をプレゼンテーションする。	プレゼンテーションの練習をしておく。	30分
第19回 「実習報告会」に向けて話し合う。	どのようなことを1年生に向けて話したらいいかを考えておく。	30分
第20回 「実習報告会」「事例研究」に向けて話し合う。	実習を通して、何を研究したいかを考えておく。	30分

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第21回 「実習報告会」についてクラス内でプレゼンテーションする。	プレゼンテーションの練習をしておく。	40分
第22回 「実習報告会」に参加する。	1年生に向けて分かりやすく伝える方法をクラス全体で考え、練習しておく。	40分
第23回 「事例研究」に向けてグループで討論する。(グループワーク)	実習記録を基に事例を考えておく。	30分
第24回 チュートリアルに参加する。	自分の実習を踏まえて1年生に伝えたいことを考え、準備しておく。	30分
第25回 「事例研究」に向けて小グループで討論する。(グループワーク)	実習記録を基に事例を考えておく。	30分
第26回 「事例研究」を作成する。	出来たところまでデーターとして打ち込んでおく。	30分
第27回 「事例研究」を作成する。	出来たところまでデーターとして打ち込んでおく。	30分
第28回 「事例研究」の冊子を作成する。	冊子に間違いがないか、確認しておく。	30分
第29回 冊子を基にグループ毎にプレゼンテーションを行う。	冊子のどの部分を発表するかを考え話し合っておく。	30分
第30回 冊子を基にグループ毎にプレゼンテーションを行う。	冊子のどの部分を発表するかを考え話し合っておく。	30分
<p>事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(レポート)をまとめることになる。</p>		
成績評価の方法・基準		
<p>定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 実習記録30% 事例研究の話し合いや内容50% プレゼンテーション20% で評価配分する。</p>		
課題に対してのフィードバック		
実習記録・指導案。事例研究を評価、添削、確認し、返却する。		
教科書・参考書		
<p>「これで安心！ 保育指導案の書き方」 開 仁志編著 北大路書房 「実習の手引き」 金城大学短期大学部 毎回使用します。</p>		
備考		